群教セ	G10 － 01
	平26.254集
	道徳－中

語り合い、思考を深める道徳指導の工夫

――自分の言葉で表現する活動の充実を通して――

特別研修員　吉田　美保

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

「中学校学習指導要領解説道徳編」に示されているように、道徳の時間の学習では、中心的な資料が生かされ、生徒の体験や資料に対する感じ方や考え方を交えながら、話合いを深めることが学習活動の中心となることが多い。「はばたく群馬の指導プラン」においても、話合い活動を充実させるために、「自分の考え」を基にして、目的に応じた話合いや聞き合う活動を取り入れて、ねらいに迫るようにと示されている。しかし、中学生の時期は、悩みや葛藤などの心の揺れを感じやすく、自分の思いや考えを本音で語り合えないことが多く、実際の道徳の時間の学習においてもその実態を感じることが多い。

そこで、道徳の時間の学習において、話合い活動や書く活動などの自分の言葉で表現する活動を充実させ、多様な考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにすることを通して、語り合い、思考を深め合う生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究内容

1　研究構想図

2　授業改善に向けた手立て

(1) 話合い活動充実のための工夫

生徒が主体的に活動するためには、資料の登場人物を通して自分の考えを深めることが大切である。そこで、授業展開において小集団による話合いを取り入れ、自分の考えを他者の考えと比較することで、考えが深められるようにしたいと考えた。また、登場人物が葛藤する場面のある絵本を資料に用いることで、自分の思いや考えを本音で語り合えるようにしたいと考えた。

① 絵本資料の活用　　自分の考えを持てるようにするため、文章量が適切で視覚からの理解もできる絵本資料を活用する。
② 小集団の人数　　自分の思いや考えを本音で発言できる環境にするため、４人を基本とする。
③ 小集団の座席配置　　話合い活動の時にお互いの表情が見えるように、座席の配置を工夫する。
④ 司会者のキーワード　話合いの活性化のため、司会者に話をつなぐキーワードを用いさせる。
⑤ 考え発表カード　　全体での考えの共有場面で、自分と他者との考えの比較を通して考えが深められるように、考え発表カードを用いて、友達の考えを紹介させる。

ア 小集団の話合いでは、付箋紙に書かれた考えと理由を読みながら台紙（考え発表カード）に貼ることで、自分の考えや理由を自信を持って伝えることができるようにする。
イ 全体の考えの共有場面では、小集団の話合いで用いた台紙（考え発表カード）を使って、友達の考えを紹介させ、自分の考えと他者の考えを比較して考えさせるようにする。

⑵ 書く活動充実のための工夫

生徒は書く活動を通して、自分のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたりすることができる。それらを基に、今までの自分のものの見方、考え方、感じ方を振り返ることもできる。そこで、ワークシートや付箋紙に自分の考えを書くことで、本音で語り合えるようにしたいと考えた。

① 中心発問と終末で書く
話合い活動を充実させるため、一番考えさせたい中心発問と終末のみで書く活動を行う。

② 考えの変容がわかるワークシート欄の活用
ワークシートを上下２段に分け、上段は更に左右に分け、上段左は自分の考えを、上段右は小集団での話合いを通して共感した考えや、自分の考えの変化を記入する欄とし、考えの変容がわかるようにする。下段は終末に全体での考えの共有を経て深まった自分の考えを記入する欄とする。

③ 考えの比較ができる付箋紙の活用
自分の考えと理由を付箋紙の色を変えて記入させ､小集団での話合い活動の中で発表する時に用い、他者との考えを比較できるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

１ 成果

○ 絵本資料は内容理解が容易であったため、生徒全員が自分の考えを持つことができた。
○ 司会者の話をつなぐキーワードの活用や、他者との考えを比較できる考え発表カードの活用で話合いが活性化した。そのため、一方的に自分の考えを述べるだけだった生徒が、友達の発言にも反応を示すようになるなど、自分の考えを自分の言葉で伝えようとするようになった。
○ 自分の考えをワークシートや付箋紙に表現し、提示することで、自分の考えの変容や他者との考えの比較がしやすくなり、終末での感想に深まりを感じるようになった。

２ 課題

○ 考えを更に深めるために､全体で考えを共有する場面で生徒の発表に対して教師が言葉を補ったり、切り返したりするなど、補助発問のタイミングや生徒の意見の引き出し方を身に付ける必要がある。
○ 発言の内容やワークシートの記入状況から思考の変化を把握するなど、生徒が思考を深めたかどうかを見取るための方法を考える必要がある。

３ 提言

○ 自分の考えを持ってから小集団での話合いを行うことで、全体での考えの共有場面で自信を持って考えを伝えようとする生徒が多くなった。ねらいに迫り、多様な考え方を引き出すことができる発問を考えることで、語り合いが充実し、思考が深められるようになると考える。

＜授業実践＞

実践１

１　**主題名**　　心の強さ　内容項目３－（３）　　（第２学年・２学期）

　　資料名　　「風切る翼」講談社　　木村裕一・作　黒田征太郎・絵

２　資料及び本時について

実践１では、「心の強さ」を主題とし、「人間は強さや弱さを持っていることを理解し、自分に自信を持って行動しようとする心情を養うこと」をねらいとした。本資料は、ツルの絵本からの自作資料である。ツルのクルルが、仲間のツルがキツネに襲われたことで、やりきれない気持ちのはけ口に仲間から責められる場面や､信頼関係があると思っていた友達のツルのカララにも相手にされずに孤立してしまう場面は、人間社会でも十分に起こり得ることである。困ったり悩んだりする状況で、周りに同調してしまう行動や心情は、人間社会での出来事と重ね合わせて考えることが容易にできる。

実践１では、小集団の話合いを通して、濡れ衣を着せられ自暴自棄になるクルルに対してカララがとった行動について語り合わせたいと考えた。ワークシートに自分の考えを書き、自分がどのように考えるかを見つめてから話合いを行わせ、話合いで友達の考えを聞くことにより、自分の考えを修正したり、見つめ直したりすることができるようにさせたいと考えた。

３　授業の実際

資料ではクルルの心情が中心に話が進んでいるが、カララの心情について考えさせた。カララが最初はどうしてクルルを助けず、他の群れの仲間の中で黙って見ていたのかを考えさせることで、その後、カララの心の弱さを克服しようとすることに意識が向けられるようにした。

一つ目の発問では、ワークシートは用いず、カララが仲間の群れの中でどんな気持ちでいたのかを考えさせるために「カララはどんな気持ちで飛べなくなったクルルを見ていただろうか」と問いかけた。

二つ目の発問を中心発問とし、次のように問いかけた。

カララがクルルを助けるために行動できたのは、どんな思いだったからだろうか

ワークシートを用いた書く活動の様子

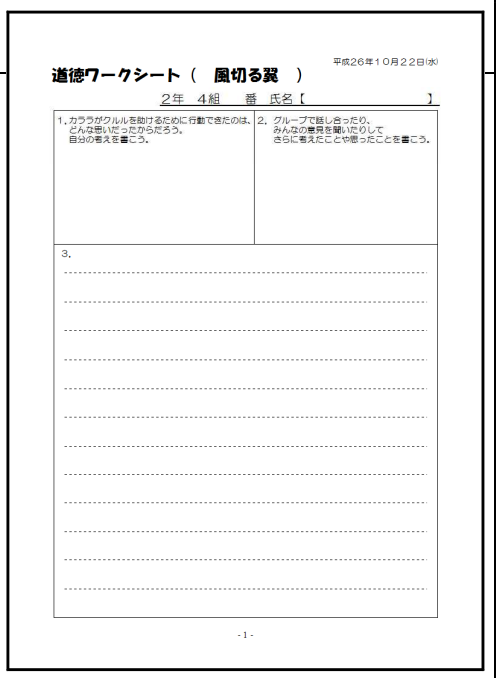
中心発問でワークシートを用いた。

小集団による話合いを行う前後に書く活動を２回設けた。１回目は自分の考えを整理するための活動で、２回目は共感したり、納得したりした友達の考えや、自分の考えが変化した場合に記入するための活動とした（図１）。

また、終末の感想をワークシート下段に書かせた（図２）。

・１回目　書く活動（自分の考え）	３分
※ワークシート記入欄１に記入	
・小集団による話合い	５分
・２回目　書く活動（共感・変化の考え）	２分
※ワークシート記入欄２に記入	
↓	
・全体での考えの共有	１５分

図１　書く活動と話合いの流れ


平成26年10月22日(水)

道徳ワークシート（　風切る翼　）

2年　4組　　番　氏名【　　】

1. カララがクルルを助けるために行動できたのは、どんな思いだったからだろう。自分の考えを書こう。	2. グループで話し合ったり、みんなの意見を聞いたりしてさらに考えたことや思ったことを書こう。

3.

-1-

図２　ワークシート

1【自分の考え】	2【共感・変化の考え】
クルルには助けてもらっていたのに、自分はクルルを見捨て、自分だけ生き延びるのは卑怯だと思ったから。	話合いで出てきた〇〇君の意見で、友達の命は自分が嫌われることとは比較にならない程、大事だと思った。

3【感想】　何か行動しようとする時に必要なことは、行動しようと思うだけではなく、実際に一歩踏み出し行動することだと思う。

この勉強から、僕は小学校１年生の頃を思い出しました。転んでけがをしていた時、普段はあまり話さない子が「大丈夫？」と声をかけてくれ、保健室まで連れて行ってくれました。

自分は今、その子のように優しく温かい、強い心を持っているのかなぁ…と考え、これからは困っている人を助けられる強い心を持った人間になりたいと思いました。

図３　生徒のワークシートの内容

小集団による話合いの様子と司会をする時のキーワード

小集団による話合いは、司会者を指名しておき、話合いの具体的な形態を示した司会カードを使って進めるようにした。司会カードは何度か利用しているため、円滑に進めることができた。

話合いを活性化させるために、司会者Ｓ１にはキーワードを用いるように指示しておいた。

Ｓ１：では、自分の考えを発表してください。
Ｓ２：今度は自分がクルルのために何かしようと思ったからだと思います。
Ｓ１：もう少し詳しく教えてください。
Ｓ２：体の弱い自分にえさをくれたり、優しくしてくれたから何かしないではいられないと思ったのだと思います。
Ｓ１：それって、恩返しをするってことですか。
Ｓ２：はいそうです。今度は自分が助ける番だと思ったのだと思います。

図４　小集団での話合いの様子

小集団の話合い後に、全体での考えの共有を行ったことで、更に考えを深めることができたようである。カララの葛藤する姿を、自分のこととしてとらえて話す生徒もいた。終末での書く活動では、ワークシート記入欄３を用いた。感想とともに「何か行動しようとするために必要なことはどんなことかを自分のこととして考えてみよう」と問いかけた。そこで出てきた生徒の考えは、次の通りであった。

勇気　　強い心　　相手の立場に立って考えること　　相手の気持ちをよく知ること　覚悟

生徒は、ここで出てきた考えとともに感想を書くことができた。図３の生徒のワークシートのように、自分や自分の周りのことに目を向けた内容を多く見ることができた。

４　考察

〇　司会者が図４のようにキーワードを用いて話合うことができたため、自分の考えを述べただけに終わらずに、理由や更なる考えを話そうとする生徒が多くなった。

〇　自分の考えを整理したり、小集団の話合いで友達の考えと比較・共有することができたため、振り返りの感想の中で、自分の考えを深めることができたと感じる生徒が多くなった。

実践２

１　**主題名**　　人間の気高さ　３－（３）　　（第２学年・２学期）

　　資料名　　「ヤクーバとライオンⅠ勇気」講談社　　ティエリー・デデュー・作　柳田邦男・訳

２　資料及び本時について

実践２では、「人間の気高さ」を主題とし、「人間誰もが持っている弱さや醜さを乗り越えていくことの素晴らしさに気付き、自らの生き方に生かそうとする心情を養うこと」をねらいとした。本資料は、主人公ヤクーバの心の葛藤が描かれた絵本からの自作資料である。中学生は、人間の内面には弱さや醜さと同時に強さや気高さを併せて持っていることを理解できるようになる時期である。また、自分自身の中にある良心と周囲の様々な誘惑との間で多くの葛藤を経験し、自分をより深く意識するようになる時期でもある。そこで、本時は、小集団の話合いを通して、「弱ったライオンを殺してでも周囲に認められる」か、「弱ったライオンを殺さずに帰り、周囲から軽蔑されてでもより正しい人間になる」かのどちらかを選択しなければならないヤクーバの葛藤について語り合わせたいと考えた。まず、自分の考えと理由を付箋紙に書き込むことで、自分がどのように考えるかを見つめさせ、発表させたいと考えた。また、全体での考えの共有場面では、自分の考えの発表だけでなく、小集団での話合いで用いた付箋紙を使って、なるほどと思った友達の考えも発表させることで、考えを深めさせ、人間が持つ弱さや醜さを乗り越え、次に向かって生きていこうとする心情を養いたいと考えた。

３　授業の実際

導入では、事前に実施したアンケートの結果を活用し、生活の中で実際に経験した葛藤の例を示すことで、葛藤のイメージを持ちやすくするとともに、生活の中にも多くの葛藤があることを意識させた。次に、スクリーンを用いて資料を提示し、物語の内容を整理するために、場面絵を黒板に貼った。

発問は、話合いの時間を充実させるために精選し、中心発問として次のように問いかけた。

> ライオンを殺さずに帰ったヤクーバは、その後どんな気持ちで過ごしただろうか
> また、なぜそのような気持ちになったのだろうか

中心発問における付箋紙の活用と生徒の反応

中心発問では、自分の考えを発表するために付箋紙を用いた。

小集団による話合いを行う前に、自分の考えとその理由を２色（黄色・桃色）の付箋紙に記入させた。 話合いでは、付箋紙に書いた自分の考えとその理由を、読みながら台紙に貼っていくように指示した。また、話合いの後には、自分の考えの発表だけでなく、友達のなるほどと感じた考えを、全体での考えの共有場面で紹介して欲しいと伝えた（図５、図６）。

・付箋紙を用いた書く活動 自分の考え（黄色）、考えの理由（桃色）	３分
・小集団による話合い ↓	５分
・全体での考えの共有	１５分

図５　書く活動と話合いの流れ

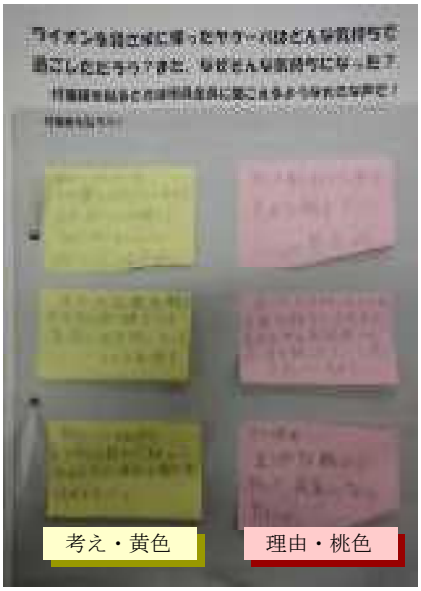


図６　台紙に貼られた付箋紙

自分の考え【付箋紙（黄色）】	考えの理由【付箋紙（桃色）】
Ｓ１：これでいいんだ	Ｓ１：ライオンを殺して仮の戦士になるくらいなら、仲間はずれにされた方が絶対後悔しないと思ったから
Ｓ２：自分は立派な戦士ではないが、誰よりも気高い心を持っているという気持	Ｓ２：弱っていたライオンをしとめて立派な戦士になるより、たとえ牛の世話係でも弱いものを救ったという誇りを持っているから
Ｓ３：弱ったライオンでも倒せば戦士になれたけど、そこまでして戦士になっても意味がない	Ｓ３：弱ったものを助けたことが立派な戦士だといえると思ったから
Ｓ４：あの時、自分が選んだ道は本当に正しかったのだろうか。	Ｓ４：もう一つの道を選んでいたら戦士になれたのにと後悔する時があると思うから
Ｓ５：後悔	Ｓ５：ライオンを殺していれば、戦士になれ、仲間はずれにされることもなかったから

図７　台紙に貼られた付箋紙の内容

小集団による話合いの様子と座席の工夫

付箋紙を用いた書く活動後、少集団による話合いを行った。付箋紙を台紙に貼る際には、自分の考えと考えの理由を、小集団の他の友達に聞こえるように読み上げながら貼るように指示した（図７）。

また、小集団の座席の工夫として、机と机の間に空間を作り、お互いの顔が見えるようにした（図８）。４人グループには正方形、３人グループには三角形の空間が机の間にでき、お互いの表情を感じられ、顔を見ながら話すことができるので、よい雰囲気で話合いが進むグループが多かった。

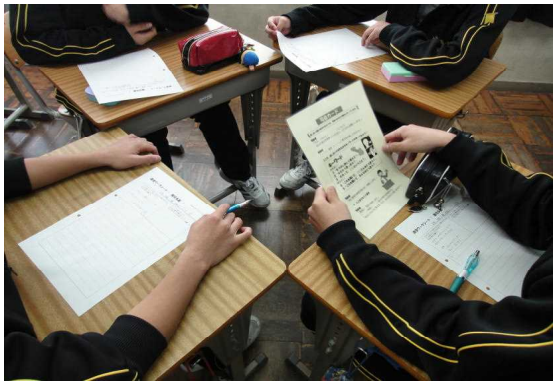


図８　小集団全員の顔が見える座席

小集団の話合い後は、全体での考えの交流を行った。全体での考えの共有場面では、自分の考えを発言するだけではなく、付箋紙を貼った考え発表カードを用いて、友達の意見も紹介する活動を取り入れた。発表時に教師が「いい意見を」と指示したためか、初めは図７のＳ１、Ｓ２、Ｓ３のような意見を紹介する生徒が多かった。その後「なるほどと思った意見を」と言い換えると、図７のＳ４、Ｓ５のような意見も出てきた。自分と友達の考えを比較して紹介する生徒や、自分の考えを更に深く考える生徒も多かった。

終末での振り返りの場面では、自分とヤクーバを重ね合わせて授業を振り返ることができ、自分の考えの変化や新たな考えを基に感想を書く生徒が多かった。

４　考察

○　小集団の座席をお互いの顔が見られるように工夫したことで、全員の表情が確認でき、安心して発言することができたため、話合いが円滑に行われたグループが多くなった。

○　友達の意見を紹介する活動を取り入れたことにより、自分の考えと友達の考えとの共通点や違いに気付くことができたため、自分の考えを一歩踏み込んで考えてみようとする生徒が多くなった。